



アクセシブルコード

開発製品の技術の概要

視覚に障害がある人でも読取りが可能な2次元バーコードの仕様を様々な実験によって明らかにし、そのコードを商品包装資材(パッケージ)に印刷するだけで、音声情報によって商品の内容を説明できるようにした。バックエンドについてはすべてシステム化し、日本語以外の言語についても同様に音声対応を可能にする事で、省スペース(16mm四方)でユニバーサル対応が可能な商品パッケージを実現した。

本技術が解消できる現状の課題およびその方法

課題	視覚障害者向けの点字を使用しない情報提供方法	解消方法	一般に発売される商品のパッケージ等に、デボス等の触覚で存在確認が出来る2次元バーコードを印刷する事により、原材料や取扱説明などを、全盲や弱視の方々にも音声情報として提供する事が出来る。
----	------------------------	------	--

従来技術・製品

全盲等の視覚障害を持つ人々が日常生活で直面する最も大きな課題のひとつが購入製品の中身(用法や原材料など)を知ることだが、従来の点字では、コストや商品包装資材上のスペースの制約から実現が困難であった。

進捗状況

量産販売準備中

現状の課題

消費者の利便性を高めるためにも、同一の規格を採用してくれるメーカーを増やすことが重要で、そのためには各業界での販路開拓におけるパートナーが必要

従来技術に対する新規性・優位性

これまでコスト面や表示スペースの観点から点字対応が難しいとされてきた商品の包装資材に、QRコードを印刷するだけで、視覚障害者や外国人が多言語の音声で情報取得できる仕組みを、多くの実証実験によって確立した。

想定される活用例

メーカーが発売する店頭薬や、加工食品などのパッケージに印刷する事で、用法や原材料などの必要な情報を世界中の幅広い消費者に届けることが出来る。(医薬品メーカーにて導入済)

マッチング先の要望

提携要望分野

最重要提携
要望分野国内
販路

他

資金:技術供
与:国内販路:
海外販路

提携希望先

販売会社

マッチングが想定できる業種・企業名

食品、化学品、医薬品業界に販路を持つ会社

企業名

エクスポート・ジャパン株式会社

設立年

2000/4

資本金(百万円)

61

代表者氏名

代表取締役 高岡謙二

連絡先	部署	大阪本社
	役職	PVIP事業担当
	氏名	竹内・福島
	E-mail	pvip@export-japan.co.jp
	TEL	非公開
	住所	大阪府大阪市中央区平野町2-1-14 KDX北浜ビル10F

会社URL

<https://export-japan.co.jp>

技術資料ダウンロードURL

<https://www.export-japan.co.jp/solution/accessible-code/>

デモンストレーション動画 URL

NEDO支援事業概要および年度

QRコードで世界中の印刷物を音声化するシステムの開発(2017年)

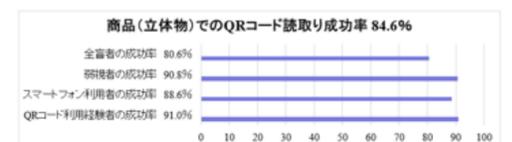
知的財産情報

出願済

技術の詳細等

視覚障害者には通常判読が困難な食品や医薬品などの説明書について、2次元バーコードを包装物の表面に印刷するだけで、手持ちのスマートフォンから簡単にコードを読取り、その端末の設定に応じた言語で音声化して読み上げる仕組みを開発。現在のスマートフォンには、視覚障害者でも利用可能なアクセシビリティ機能が搭載されていて、上記の方法と組み合わせることで、食品のアレルギー情報などを言語に関わらず音声対応にする事を可能にしました。

本開発では、日本全国で100名以上の視覚障害をお持ちの方々に参加頂いたヒアリングや実証実験結果によって、日常生活での課題からスマートフォンでQRコードを読取る際の必要条件までを明らかにしました。その上で、視覚障害者でも読取り可能なQRコードの印刷方法に関する仕様を定め、読取った際に情報を多言語で音声化する仕組みも合わせてシステム化を行いました。



会社URL



技術資料ダウンロードURL



デモンストレーション動画 URL

エクスポート・ジャパン株式会社

技術の詳細等

視覚障害者には通常判読が困難な食品や医薬品などの説明書について、2次元バーコードを包装物の表面に印刷するだけで、手持ちのスマートフォンから簡単にコードを読み取り、その端末の設定に応じた言語で音声化して読み上げる仕組みを開発。現在のスマートフォンには、視覚障害者でも利用可能なアクセシビリティ機能が搭載されていて、上記の方法と組み合わせることで、食品のアレルギー情報などを言語に関わらず音声対応にする事を可能にしました。

本開発では、日本全国で100名以上の視覚障害者をお持ちの方々に参加頂いたヒアリングや実証実験結果によって、日常生活での課題からスマートフォンでQRコードを読み取る際の必要条件までを明らかにしました。その上で、視覚障害者でも読み取り可能なQRコードの印刷方法に関する仕様を定め、読み取った際に情報を多言語で音声化する仕組みも合わせてシステム化を行いました。

